ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【高山ダム】

令和３年３月

水資源機構
関西・吉野川支社

【高山ダム】

1. 事業の概要

特になし

2. 洪水調節

特になし

3. 利水補給

特になし

4. 堆砂

特になし

5. 水質

項目	意　　見	整 理 状 況	今後の対応方針
5.3.1(3) 水温連続観測 本編 P5-33～34 概要版P48	・「水温の乖離は、流入河川の水温の変動によるものであり、放流水温の低下によるものではない」の根拠が示されていない。変動を勘案しても常に放流水温の方が低い傾向にあるので、乖離は流入水温の変動によるものという記載は適切ではない。	以下のとおり修正した。 【本編P5-33、概要版P48】 ・春先の流入河川と下流河川の水温で乖離が生じることを示した上で、流入河川の水温変動がある中での月1回調査の経月変化は、その乖離が大きな状態で示される場合があることを記載。	―

6. 生物

項目	意　見	整 理 状 況	今後の対応方針
6.3.2(2)④2) ダム湖岸における植物群落の経年変化 本編 P6-142～152 概要版P85	・ダム湖岸におけるイタチハギ群落等の分析については、単に群落の面積増減を見ていけば良いのではなく、鹿の食害で裸地が拡大した場合には、ダム湖への土砂流入や水質の課題に繋がっていく警鐘となる。	―	・令和3年度の河川水辺の国勢調査において、「両生類・爬虫類・哺乳類」の調査を行う予定であり、調査を通じてニホンジカの生息状況を湖岸植生と合わせて注視する。
6.3.2(2)⑤2)3) ダム湖水面及びダム湖岸を利用する鳥類の経年変化 本編 P6-159～161 概要版P87～88	・鳥類種の確認状況について、「比較的多い個体数」、「減少傾向にある」との記述があるが、添付図と整合した正確な記述とすること。	以下のとおり修正した。 【本編P6-159～161、概要版P87～88】 ・確認状況の継続性に着目点を改めて、記載内容を修正。 ・過年度に比べて個体数が顕著に変動した種に限り、個体数に関する記述を記載。	―
6.3.2(2)⑥1) 両生類・爬虫類・哺乳類相の長期的経年変化	・哺乳類の経年的な確認種数について、13種→13種→11種→20種という経年変化が見られる中で「大きな減少はみられない」という記述となっており、添付	以下のとおり修正した。 【本編P6-163、概要版P89】 ・本編と同様に在来種の確認種数に着目し、大きな変動がなく生息環境が概ね維持されていることを記載（概	―

本編 P6-162～163 概要版P89	表と整合しないことから正確な記述とすること。また、この間で調査方法が変わった等の事象があれば記述すること。	要版)。 ・在来種の確認種数に大きな変動がない一方で、新たに確認された外来種もあることから、今後注視することを記載(概要版)。 ・コウモリ調査は平成23年度のみの実施であり、調査実施年度により調査内容に相違があることが分かるよう修正(本編、概要版)。	
概要版生物の図表のあるページ	・概要版生物の「出典」の表記について、出典の対象を明確にすること。	以下のとおり修正した。 ・「出典」を「データの出典」に記述を修正。	―

7. 水源地域動態

特になし